

「芽吹き」

長野県 高等学校（国語）教諭（120期 日本文学科）

高校時代の古典の授業で多くの感動を与えてくれた先生に憧れ、また大学で専門的に学び国語について深く考えるようになり、教師になりたいという思いを抱きました。夢を叶えるために一年次から研究会で専門の知識を深め、国語の教科書に掲載される作品について学ぶ講義を受講する、幅広く本を読む、司書教諭等の資格取得のための勉強を行うなどしてきました。三年次からは大学主催の教職ゼミを受講しました。この一步は私にとって大きなもので、ゼミで学んだ時間はかけがえのないものになりました。

私がそうであったように、教師になるための勉強をする中で、今、不安や悩みをかかえている人もいるかもしれません。私からアドバイスできることは次の三点です。

1 何事も楽しんで取り組む

教員採用試験に向けての勉強は、自分の夢を叶えるための勉強であるからとても楽しいものでした。辛い時があっても「これだけはやる」ということを逃げずにしっかり行なうことが大切だと思います。様々なことに興味を持ち、「なぜ」と教師の目で物事を見る重要性もゼミで学びました。

「大変そう」、「難しそう」と思うよりも、「知らないことが学べる機会があつてありがたい」、「どんな経験ができるのだろう」、「他の人の意見を聞くことが出来て面白そう」と前向きに取り組んで下さい。真摯に取り組めば思う以上のことが得られます。

2 感動をする

前向きに取り組む中で「感動」を多くすると思います。書籍の言葉、映像、自分自身の体験などあらゆることから感動する気持は大きなものです。その気持が言葉となった時、確かな重みを持って多くの人に伝わると私は思います。実際にゼミの先生方のお言葉、一緒に学ぶゼミ生の姿、採用試験の過去の問題の文章、スクールボランティアでの体験など多くのことから感動しました。その感動をノートに書き込み自分の言葉にすることを怠らなかつたからこそ小論文や面接で「私」を話せたように思います。積極的に動いて、様々なことを吸収し多くの感動をして下さい。

3 信念を貫き通す

不安のあまり企業の就職活動へと迷う時もありました。ただどんな時でも教師になりたい、という思いがずっとあることに気付きました。地元で職に就きたいとしがみついていたのですが、教育実習で教職の魅力に改めて気付く、またここ（教壇）に立って授業をしたい、教師になりたいと強く思うようになりました。そこで地元で教師になるという志を大事にしながらかも他県も受験することを決め、教師になるための道を拓く努力をしました。意志を固めるまでが私の場合長く、なかなか自分と向き合えませんでした。しかし、自分を見つめなければ見えてくるものも見えてきませんし、見るとたくさんの人から頂いた言葉の意味が分かります。その時、土壌は整っている、ありがたい環境に自分がいることに気付きます。後は「努力」あるのみです。「ゼミで学んでいることは主要なテーマのほんの一部である」と気付いた時、ゼミの課題だけでなくあくせくしている私は途方のない気持になりました。それでもコツコツ積み重ねて行くことが必要です。少量でも毎日栄養を蓄えれば、種は大きくなっていきます。謙虚に、着実に。全体が見え、つながった時に今まで勉強してきたことの重要性が分かります。私はゼミの合宿や教育実習でそれを実感しました。「継続は力なり」は真実です。

色々な情報が入って来て迷い、悩む時もあると思います。けれど最後まで諦めず、自分の信念を貫き通して下さい。私は今、芽が出た所です。これからさらに本物の教師、太い樹になるため努力していきます。

一人ではありません。先生方、大学職員の方々、ゼミの仲間、家族など多くの人が支えてくれています。一つ一つの出会いを大切に、感謝の心を持って前へ進んで下さい。応援しています。